

同性愛に関する統一思想の見解

張 全 鋒

台湾・統一思想研究院院長

1. 同性愛主義とは何か？

同性愛主義は同性愛運動のイデオロギー、すなわち、理論、思想、戦略、文化である。同性愛運動は、同性愛者の活動を促進し、その法的権利を創造し、保護するための社会運動である。同性愛者には LGBT 共同体と呼ばれるレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル(両性愛者)及びトランス・ジェンダー(性を超越する人)が含まれる。同性愛者とは、主としてまたは排他的に同性の人に対して性的な魅力または性行動を持つ人のことをいう。

一つの重要な現象は、同性愛運動の主要かつ多くの活動家が異性愛の指向性を持つ人々であるということである。共産主義運動と同様に、共産主義運動の主要かつ多くの活動家は労働者ではない。したがって、同性愛者たちを同性愛主義のイデオロギーを促進するためのツールとして用いる多くの異性愛のリーダーたちがいると言うことができる。

同性愛運動は強力な世界的社会運動であり、共産主義運動とあまりにも似た政治運動である。しかし、共産主義運動が民主主義社会の経済構造を打倒するために暴力革命の方法を用いるのに対して、同性愛運動は民主主義社会の倫理構造を打倒する目標に到達するために、平和的かつ民主主義的な立法手段を使用する。

同性愛主義の根本的な哲学基盤は、ジェンダーの多様性とフリーセックスである。この形而上学的基盤の上に、彼らは、人権の概念、特に異性愛者間の結婚と同性愛者間の結婚の権利は平等であるべきだと論じることによって、人権の概念を利用して同性愛運動の理論を発展させる。

同性愛運動を促進するための同性愛運動の戦略は、法律、教育、メディア、ロビー活動を通して行い、かつ政府の役人になることである。これらの戦略はすべて民主主義社会においてどの利益団体のためにも使用される典型的な方法である。それは正常かつ合法である。そのため、始めはわずかな人々しか同性愛運動の努力に注意を向けない。しかし、同性婚姻法の立法化によって深刻な結果が生じるようになったために、人々はそれに対して真剣になり、それを防ごうとするようになった。しかし、それは容易なことではない。

2. 同性愛主義の哲学的基盤

同性愛主義の根本哲学は、フリーセックスとジェンダーの多様性である。その基盤の上に、彼らは、男女平等と結婚の権利を主張し、LGBT に対する差別のない同性結婚の立法化にそれを適用する。それは社会、国家、世界に物凄い影響を与える。

(1) フリーセックス

フリーセックスは同性愛主義の基本的な信念である。フリーセックスの目標を実現するために、彼らは 2 つの性の概念を多様なジェンダーに変えて、男性と女性だけでなく、レスビアン、ゲイ、両性愛やトランス・ジェンダーを含むようにし、M(男性)か F(女性)である他のすべての人々と LGBT の平等な権利を要求する。

フリーセックス哲学は、道徳、倫理、法律などすべての種類の規範を人間の性行動に課すことを否定する。同性愛者の大部分は、配偶者間の性の貞節を否定するだけでなく、近親相姦の禁止をも否定し、その上に、人間と動物の間の性交をさえ認める。

彼らは教育制度において教える法的権利を得ると、すべての学生に体の自主性と性的欲望の自由性を提唱し教える。そして彼らは、小学校や幼稚園の児童にまで同性愛者や異性愛者の様々な種類の性交について教えさえもする。これが最近台湾で大きな論争となった。

(2) 多様なジェンダー

私たちは本来、男性と女性の二つの性しかないと思う。しかし、同性愛運動の活動家たちは、二つの性に代わる多様なジェンダーを発展させる。ジェンダーとは彼らが生理的性または生物学的性と呼ぶ男性と女性だけでなく、性のアイデンティティ(ジェンダー・アイデンティティ)、ジェンダーの質、ジェンダー指向などの心理学的、社会学的、文化的な性をも含めることをより好む。

生物学的性は性器で判断される。それは男性または女性に関連し、男女の性的平等に関係する。それは合理的であり、重要である。性のアイデンティティ(ジェンダー・アイデンティティ)とは、自分は男であるかまたは女であると感じることであり、それは男が女に変身したい、または、女が男に変身したいというトランス・ジェンダーと関連している。

ジェンダーの質とは、自分が男のように見えるか女のように**見えるか**ということであり、これは**めめしい男**や**おてんば娘**に関連する。**性的指向**とは、自分が好むのは男性であるか女性であるかということであり、これはゲイ、レスビアン、両性愛者に関連する。

生物学的性は客観的な概念であり、性のアイデンティティや、ジェンダー、性の質や性的指向は主観的な概念で、急進的な個人主義に基づく個人の気持ちに依存する。誰にでも決められる

ジェンダー・アイデンティティは、尊重しなければならず、差別することはできない。客観的な性器は重要ではなく、主観的な気持ちや欲望がより重要である。LGBTの人々はそれぞれの多様な性的指向を持って生まれているであり、それは病気ではなく、直す必要がなく、変えることもできない、と彼らは主張する。

どのような種類の性器を持っていようと、誰もが自己のジェンダーを決めることができる。そして、次に、その人は自分が決める性のアイデンティティのトイレや公衆浴場に入る権利があると主張することができる。もし大声で叫ぶならば、性差別だと讒訴されるかもしれず、法律で罰せられるであろう。このような事は、法が合法化した同性結婚が合法化され、性差別を禁止する法律が承認されているいくつかの国で起こったことである。

(3) 男女平等(Gender Equality)

LGBT 共同体はジェンダー少数者の共同体であるとしても、彼らはジェンダー多数者の共同体である異性愛の人々によって平等に取り扱われなければならない。社会のあらゆる面において LGBT 共同体は、教育、軍務、公務、就職、医療、保険、税金控除、財産相続、結婚(同性結婚)の権利などに関して、尊重され、法律によって平等に守られるようにアピールする。

台湾の教育分野では、同性愛運動は、「両性平等教育法」を「男女平等教育法」に変えることに成功し、2004 年から台湾の文部省、すべての地方自治体、そして小学校から大学までのすべての学校に男女平等教育委員会を組織し、その後首相府に新しく男女平等部を設立した。もちろん、男女平等教育委員会は首相府にも設置された。いかなる男女平等教育委員会においても LGBT を支持する委員が 4 分の 1 以上は任命されなければならないことになっている。

言うまでもないことであるが、2004 年から現在まで台湾の至る所の男女平等教育委員会の様々なレベルにおいて、多くの学者や LGBT の人々が委員になった。彼らの願望と目的は、台湾、アジア、全世界で同性愛運動を促進することである。それ故、台湾は既にアジアにおける同性愛運動の楽園になったのである。

教育の課程は、私たちの次世代の人格を形成するための長いプロセスである。同性愛運動の専門家たちは、市民が支払った税金である政府の金を用いて、多くの国立大学で同性愛運動の学者や活動家を育て、性とジェンダー研究のために多くの部門や研究所を設立するために、多くのエネルギーと資源を教育分野に投資している。

男女が成人すれば、その人は結婚するための配偶者を見つけたいと願うであろう。男女平等の原則が LGBT 少数者集団のための結婚問題に適用されるとき、彼らは、同性結婚法やパートナー制度法を実施したいと考えている。誰もが結婚する平等な権利があるのに、現在の法体系は異性間の結婚だけを許している。それは平等な結婚の権利という人権に反する差別である、と彼らは主張する。

2013年9月、「同性結婚法」、「パートナー制度法」、「多様な家族制度法」の3つの法案の立法化の企てに反対し、30万の人々が台湾の総統広場に集まって、伝統的な家族を守るように訴えた。それは何故であろうか？ もしこれらの法案が承認されれば、台湾で姦淫、近親相姦、性の頽廃を合法化することになるだろう。同性愛運動を支持する学者や弁護士たちは、同性愛運動の目標は、家庭を破壊し、結婚を廃止することであると宣言した。

これらの3つの法案によると、第一に、同性婚を合法化するために、父、母、夫、妻、祖父母などの言葉が台湾の民法からなくなり、同性結婚に適したその他の性中立の言葉に置き換えられるであろう。

第二に、直系の親族以外のいかなる2人の成人でもパートナーとして政府に登録することができるようになる。

第三に、結婚か血統による関係のない人でも、家族として登録し、一緒に生活することができるようになり、一人と一人の親密な関係の基盤に何の制限もなく、伝統的な家族のようにすべての法的権利を共有できるようになる。これらの3つの法律によって、台湾は、すぐに、姦淫、近親相姦、性の頽廃を合法化するようになるだろう。

首相府の男女平等局は、男女平等政策のガイドラインを作成した。この政策ガイドラインでは、男女平等基本法を立法化する任務があるとされている。そして、実際、既に男女平等基本法の草案を作成して、民主的な適正手続きのプロセスを通して、立法化するための準備をしている。台湾の立法院(台湾議会)には同性愛運動の合法化を支持する議員が多くいる。基本的に彼らはよりリベラルなDPP(民進党)に所属しており、LGBT共同体や社会の少数者の人権を促進することが民主主義の進歩を促進する印の1つであると考えている。

もし同性愛運動が男女平等基本法の立法化に成功すれば、それは国の憲法と同じレベルにおける法律となる。それは台湾がフリーセックスと姦淫の独裁国家になることを示すものである。「**台湾における同性愛運動の計画と戦略**」を以下の図表1で示す。

(4) 人権

同性愛運動が言及するのを好む人権とは、上に述べたように平等の権利である。彼らは自由の権利の誤用であるフリーセックスの根拠の上に立っているが、フリーセックスの権利を主張することは好まず、代わりに、「体の自立性」(Body Autonomy)や、「情緒的性欲の自立性」(Affective Sexual Desire Autonomy)、性解放などの用語をフリーセックスの意味を表すのに用いる。彼らは個人主義を極端に推進し、LGBT共同体の人たちが法律にしてほしいと望む事は何でも彼らを満足させるものでなければならない、なぜなら自分たちは社会の少数者であり、差別され、不平等に扱われているからだ、と主張する。平等な人権によれば、彼らの性的指向は尊重されるべきであり、そして、彼らの願望を満足する機会は法律によって守られるべきである。なぜなら彼

らはそのような多様な性的指向を持って産まれたのであり、それは病気ではなく、変えることもできないからである。

人権に関して、同性愛運動の支持者たちは国際協定に言及するのが好きで、市民的および政治的権利に関する国際規約、経済的社会的文化的権利に関する規約、女性に対するあらゆる形の差別撤廃に関する規約、ジョグジャカルタ原則等に言及して、これらの国際協定や国連の専門家たちの権威を用いてできるだけ早く同性愛結婚の法律を認めるように世界中の国家に圧力をかける。それは台湾政府には効き目がある。なぜなら台湾は国際的な孤児であり、23カ国としか外交関係を持っていないからである。それゆえ、同性愛運動は、フリーセックスと同性婚の立法化によって、伝統的な家庭を破壊し伝統的な結婚を廃止しようとする活発な国際運動なのである。

3. 同性愛主義の批判と代案

(1) フリーセックス

性行為は誰でも望むままに無制限に自由であることはできない。フリーセックスの行為は、それを実践する人と社会全体を物理的かつ倫理的に台無しにする。性行動は理性的、合法的に受け入れられるものではなく、他人や社会や国家の法制度および神によって認められ、祝福されるものではない。夫と妻の間の性的関係だけが合理的かつ合法的であり、他人や社会や国家の法制度および神によって認められ、祝福される。

いかなる人にとっても、いかなる場所であろうと、いかなる時であろうと、性行為の絶対的な規範がある。すなわち、唯一の許される性関係は夫婦関係の中においてのみに厳しく制限されるものである。したがって、セックスには絶対的規範があり、それを「絶対性」(Absolute Sex)と呼ぶ。夫婦関係の外におけるいかなる種類の性関係も不倫の愛、すなわち姦淫であり、抑制されるべきである。それ故、同性間の性行為もまたある種の不倫の愛、すなわち姦淫であり、抑制されるべきである。フリーセックスは絶対性に取り替えるべきであり、そうすれば全てが正しいようになるであろう。

結婚と家族の制度は東西の歴史において全て一夫一婦主義の方向に向かっている。このことは一夫一婦主義制度が普遍的な人間性と一致し、また天道、すなわち神の意志と一致するものであることを意味する。歴史には、濾過、除去、および選択の強い力がある。人類歴史の法制度における濾過、除去、および選択の長いプロセスを通して、一夫多妻や一妻多夫の制度は次第に消滅した。なぜなら人類と神の両方がそれは人類にとって良くないと考えておられるからである。絶対性は天道であり永遠なる繁栄をもたらすが、フリーセックスは天道に違反し、いずれは必ず人類歴史において消滅するであろう。

(2) 多様なジェンダー

過去の歴史の長いにおいて、人々は性には男性と女性という二つの性しかないと考えた。しかし、最近、台湾の学者は「多様なジェンダー」という概念を発展させた。これは人間の性には単に男性と女性のみでなく、レスビアン、ゲイ、両性愛者、トランス・ジェンダーなども含まれると主張する考え方である。「多様なジェンダー」理論は、さまざまな性理論は、女性の法的権利よりも LGBT 共同体の法的権利を気にかけて、強調する。「多様なジェンダー」や「反ジェンダー差別」を立法化して「ジェンダーの平等教育法」を成立させ、伝統的な「男性と女性の2つの性」に取って代えようとしている。

しかし、実際には、LGBT を男性と女性と共に同じ現存する存在論的なレベルに置こうとする「多様なジェンダー」の概念は間違っている。それは論理的な誤りでもある。何故なら、レスビアン、ゲイ、両性愛者は皆、男性か女性のどちらかに属するものだからである。彼らは男性か女性以外の他の性ではない。両性愛者は、レスビアンは女性であり、ゲイは男性であり、両性愛者は男性か女性のどちらかである。それらは、普通のもしくは大部分の男女の他に、特別な性的指向、性的習慣、または性的欲求を持っているいくらかの男性か女性であるにすぎない。

性的指向は性(Sex)と同じ存在論的なレベルにあるものではない。性的指向は、性(Sex)の下位の存在論的なレベルにある。性的指向は性(Sex)の多くの属性の一つにすぎない。したがって、L、G、B は男性または女性と等しい法的地位を要求することはできない。男性または女性、特に、過去の歴史において権利が無視されてきた女性と等しい尊敬や法的な権利を求めることは論理的な誤りである。

レスビアン、ゲイ、両性愛者はその人の**性的指向**に従って分類されるが、トランス・ジェンダーはその人の性のアイデンティティまたはジェンダーのアイデンティティに従って分類される。性的指向とは「自分はどんなセックスが好きか?」ということであるが、性のアイデンティティまたはジェンダーのアイデンティティとは「**自分はどんな性であるか?**」ということの意味する。性的指向と性のアイデンティティは両方とも男と女の性の属性である。

トランス・ジェンダーとは、自分の性のアイデンティティ(女性か、男性か、そのどちらでもないか、またはそのどちらでもあるという自己のアイデンティティ)または、自分に与えられた性(女性か、男性か、そのどちらでもないか、またはそのどちらでもあると他人によって認められるアイデンティティ)の状態のことである。トランス・ジェンダーは性的指向からは独立している。トランス・ジェンダーの人々は、自分が異性愛者、同性愛者、または両性愛者であると認識すれば良い。

トランス・セックスとは、トランス・ジェンダーの一部であり、その人は生殖器から判断される自己の生物学的性を転換したいという欲望を持っているか、すでに転換外科手術をした人のことである。トランス・ジェンダーの人すべてが外科手術によって自分の性を転換したがついていないわけではない。トランス・ジェンダーの人は、政府の人が市民または訪問者の性を取り扱う時に、性に関

して「男性」または「女性」または「未定」や「不詳」を意味する「X」と記入するが、第三の性を意味するわけではないので、混乱の原因となる。

世界には二つの性があるだけで、絶対に第三の性があるわけでは無い。レズビアン、ゲイ、両性愛者を含む同性愛者は男性か女性のどちらかに属する。彼らは男性と女性以外の他の性ではない。同性愛者は社会の普通の人または大部分の人とは異なる特別の性の好みを持つ男女にすぎない。彼らは自分たちが男性か女性とは異なる性の存在であると主張することはできない。男性や女性と、特に「過去の歴史で無視された女性の平等な法的権利」を持つ者として、平等に取り扱われるべきである。実際、彼らは男性か女性のどちらかである。

トランス・セックスの人とは、自分が性の転換をするための外科手術を願うか願わないかにかかわらず、現在の性とは別の性であるべきだと思うが、依然として男性か女性のいずれかである人のことである。これまで自分の性が何であるかを決めなかった人でさえ、実際には自分の性器に従って男性か女性である。

性科学者であり、かつ心理学者でもあるジョン・マネーは、性のアイデンティティとジェンダーを研究して、ジェンダー・アイデンティティという用語を作った。彼は、ジェンダーの全体的な意味は、生物学的性や生殖器の解剖学的構造にかかわらず、「個人的に経験」し、「公的に現されるもの」であると言った。ロバート・ストーラーは「性とは出生前の生物学的力の結果として生じる状態であり、それはほとんど常に曖昧な女性または男性の生殖を持った新生児に起こるものである」と言ったと引用されている。ジェンダーとは、「個人の内部および個人の間で発展する心理的な状態である」。これは性とジェンダーの違いについて完璧に説明する引用文である。

人は自分の性を自分の主観的な気持か好みに従って選ぶことができる、と主張することは馬鹿げている。なぜならそれには客観的な基準が全くなく、社会的な相互作用、特に公衆トイレや浴室の使用の際に、ものすごい混乱を惹起するであろうからである。

中間の性に関しては、世界保健機関のゲノム学リソースセンターはそれを生殖および性システムの先天的異常と定義している。中間の性の人、両方の性の生物学的属性を持っているか、またはどちらかの性として定義されるために必要と考えられている生物学的属性のいくつかを欠如しているかもしれない。中間の性には、「男性の偽両性具有者」、「女性の偽両性具有者」、および「真性両性具有者」がいる。偽両性具有者は、大きい陰核または小さい陰茎のように見える曖昧な性器を持っている。「真性両性具有者」とは、精巣と卵巣の組織の両方を持つ人と定義されている。しかし、中間の性の人でも明確に男性または女性としての人生を送ろうとし、性転換手術を望むかもしれないし、望まないかもしれない。

統一思想によると、神は陽性と陰性、または東洋哲学で使用される用語である陽性と陰性の統一体である。そして神は男と女だけを創造される。男は女のために創造され、女は男のために創造されている。男は神の半分である陽性の面を表し、女は神のもう半分である陰性を表す。成

熟した男性と成熟した女性が神の祝福を受けて結婚すると、夫婦の結合は神の目に見える実体であり、子供を生むことができる。子供は神による生命の創造の延長である。

男性と女性は東洋と西洋の哲学と宗教の本流において人間の存在の共通の形而上学的基礎であり、そして、それは真理である。男性と女性以外のいかなる他の第3の性もない。男性と女性以外の多様な性としてLGBTを論じようとする試みは役に立たない。もしLGBTのジェンダー研究や性科学が同性愛運動の促進を目的としたり、フリーセックスの哲学を正当化しようとするならば、それは客観的な基盤の不足やゲノムまたはホルモンの証拠の欠如のために偽の科学になるだろう。

同性愛の行動はまた、単に科学の問題であるだけでなく、道徳と倫理の問題でもある。同性愛の原因については、これまでのところ明確な答えはないが、霊的な存在や霊界からの霊的な要因を全く無視すべきではない。実際には、霊的な存在や霊界からの影響は同性愛の最も重要な要因である。LGBTは正常であって病気ではなく、性的指向は先天的であり、変えることはできないと強調している学者は、同性愛者を中心とするフリーセックス運動を促進するための心理学の主観的な主張に過ぎない。それは真理ではないが、実際にそれを支持し、提唱している世界的な大きな学界が存在する。

(3) 男女平等について

「男性と女性」を含む客観的な生物学的な「性」の概念の伝統的な定義を、客観的な「生物学的な性」と主観的な「性的指向」、「ジェンダー・アイデンティティ」、「性の質」を含む主観的な社会学の「ジェンダー」の概念の現代的な定義に拡大した後に、LGBTは男性・女性と等しい位置を得る。

教育界、すなわちすべてのキャンパスにおいて、男女平等教育法によって、すべての教師と学生は、LGBTを尊重しなければならず、LGBTに関する知識を教えるようLGBTを招待する。

親はこのような性解放教育が小学校、中学校、高校で行われることを受け入れることはできない。しかし、そもそも親は同性愛運動によって侵入された教育の現実を知らなかったのである。10年が過ぎて、親はその現実を暴露している「純潔同盟」(TLA)や「家族を大切にするための台湾超宗教連合」(TICCF)を通して現実を知り始めた。彼らは忍耐することができずに、2013年の11月30日に台湾の総統府の前で記者会見と30万人のデモを行って、抗議し、怒りを叫んだ。

もし社会が同性の結合を結婚と認めるか、または、名義上は市民の結合であるが、結婚と同じ権利を持つ者として認めるとすれば、そのような同性結婚や市民権の合法化により、結婚や家族の定義が変えられ、破壊されるであろう。

なぜか？ なぜなら、今日の世界では社会の大部分の法的制度や社会制度は1人の男性と1人の女性、または1人の夫と1人の妻の結婚を基礎として確立されており、それが異性との結婚に

よって家庭を作り、子供を生み、物質的な経済関係と共に、社会の関係の精神的な基礎としての倫理的な人間関係からなる人間社会を形成しているからである。

例えば台湾では、同性の合法化により、民法の「父と母」を「親」に、「夫と妻」を「カップル」に、「祖父と祖母」を「親の血筋による年上の親族」など、すべての法律用語を変更するように求めている。そうなれば、「父」、「母」、「夫」、「妻」、「祖父」、「祖母」の概念はすべて台湾の民法から消えてしまい、法律を同性結婚にふさわしくするために、法律では認められなくなるであろう。

それ故に、30万の人々が、2013年11月30日に総統府の前でデモンストレーション集会を開いて、伝統的な結婚と家庭を守るために同性結婚の立法化に反対したのである。

さらにまた、市民結合法案では、パートナー間の性的貞節を否定し、直系の血族以外の成人の市民が結合のパートナーとして役所に登録することを許可する。このようにして、一度それが法律となれば、姦淫や近親相姦が合法化される。その法案が通れば、フリーセックスは直ちに合法となる。さらに、多数家族法案では、家族を組織化している人々は伝統的な家族が要求したように血統や結婚による親族である必要はなく、そのような関係なしに、何人の人でも家族を組織化して契約や役所に登録することによって家族になることができる。

家庭における親密な関係は1対1の関係には基づかない。したがって、この法律を通して、乱交が合法化されるようになり、フリーセックスの究極の目標がこの法律で保護されることになるだろう。

同性愛の合法化に反対する「みんなのためのデモ」という大会が、昨年最初に数十万人の人々によってパリから始められ、それが100万人以上になり、今年の2月2日には、パリからマドリッド、ローマ、ブリュッセル、ワルシャワ、ブダペスト、ブカレストに広がった。それはヨーロッパの社会を守るためであった。彼らはこの大会が将来、世界的な規模に広がるだろうと叫んだ。

同性結婚の合法化によって引き起こされたもうひとつの重大な脅威がある。それは同性のカップルが子供を養子にしたり、人工的に生殖を行うことの合法化である。彼らは子供を養子にしたり、人工的な生殖技術による試験管内での受精や代理母の制度を希望し、それらの権利を保護する法律を作ろうとする。同性結婚のカップルは自分たちだけで精液と卵の両方を持つことはできない。そこで第三者から精液や卵を入手しようとするのである。

統一思想の観点では、結婚は神の祝福の下での男性と女性の永遠の結合である。1人の男性と1人の女性の永遠の結合だけが結婚と呼ぶことができるのであり、家庭を形成し、子供の繁殖を通して、氏族、国家、世界へと拡大することができるのである。同性愛の行為を中心とした2人の男性または2人の女性の結合は、一種の同棲に過ぎず、結婚と呼ぶことはできないし、認めることもできない。そして、家庭は1人の夫と1人の妻の永遠の結合を基礎として樹立することができるものであり、カップルには貞節を維持する相互の義務を伴うのである。

(4) 人権に関して

同性愛者の人権の議論はフリーセックスと同性愛者の平等な権利の基盤に基づいているが、フリーセックスの哲学は人間の性行為についての間違った哲学であり、同性愛の行動は天道、神の意志、人間性に反しており、したがって、同性愛者の人権は正義と天道、神の意志、自然法と人間性の欠如であり、結局それは人権の間違った概念であるにすぎない。言い換えれば、同性愛の行為は人権ではなく、一種の不倫の愛であり、抑制されるべきである。

台湾では、男女平等基本法の草案が政府の資金援助で国立大学の教授によって書かれたものが準備された。そして、彼らは生物的性、性的指向、ジェンダー・アイデンティティ、および LGBT を含む多様な性の定義を追加することによって、現在の男女平等教育法を修正しようとしている。

台湾は新しい成熟した民主主義国家であるとともに国際孤児でもあり、したがって、人権に関する国際法の国際専門家の意見には非常に敏感である。こうした種類の国際的な専門家グループの中には、活発な同性愛者が含まれている。彼らは台湾における LGBT の人権は十分でないと批判して、LGBT の権利を擁護する法律の立法化の速度を急ぐようにと台湾政府をプッシュする。しかし、どの国も主権独立国であり、その国の政府と国民が、その国と国民にとって何が良いものであるかを選ぶ権利を持っている。避けられないことではあるが、多くの民主的な立法をめぐる闘争が台湾や世界で、パリその他の多くのヨーロッパ諸国での「みんなのためのデモ」のように、起きるであろう。

統一思想によると、人類歴史における善悪の最終的闘争は、神とサタンの最後の対決をみるであろう。通常、我々はそれを民主主義世界と共産主義世界の有神論と無神論を中心とした闘争の最後の対決であると考え。しかし、それは神とサタンの歴史的に最後の対決の半分にすぎない。もう一つあり、それは同性愛主義と神主義の闘争の最後の対決であり、世界的な同性愛運動と超宗教運動がそれぞれ提唱する「フリーセックス」と「絶対セックス」の闘争の最後の対決なのである。

サタンはサタン三大祝福の実現を通して、フリーセックス・サタンの王国を樹立しようと企てる。サタンは神が将来したいと願うことを模倣する。それ故に、我々はサタンのフリーセックスへの愛を、神の純潔への愛に変えればよいのである。そうすれば、前に述べた戦略を直ちに神の三大祝福を中心とした神の国と世界を樹立する神の戦略に変えて、同性愛主義に勝利することができる。

それは同性愛に勝利するための国際的超宗教的運動を通して実現することができる。なぜならすべての宗教が欧米を中心とする国際的な同性愛運動から来る共通の挑戦に直面しているからである。そして、世界的に同性愛に勝利するための超宗教運動を通してすべての宗教を1つにす

ることができるのは「絶対性」と神の三大祝福の真の父母の哲学しかない。同性愛に勝利するための戦略図表は図表2に示されている。

アメリカの聖職指導者会議(AGLC)や家庭党のように、超宗教団体が同性愛主義に勝利するためのキャンペーンと神の国、すなわち天一国のための国家建設キャンペーンにおいて指導的な役割を果たさなければならない。もちろん、世界平和統一家庭連合(FFWPU)の祝福家庭と宇宙平和連合(UPF)の平和大使(AFP)が同性愛主義に勝利するためのキャンペーンと神の国、すなわち天一国建設キャンペーンを強く支援しなければならない。同性愛主義に勝利するための国際超宗教キャンペーン(IICVOH)と天一国建設キャンペーンの図表は図表3に示されている。

4. 結論

同性愛運動はフリーセックス哲学とLGBTの多様なジェンダー中心とした同性愛主義のイデオロギーを開発し、LGBTは男女平等に尊重される平等な人権と異性結婚と同じように同性が平等に結婚する権利を持っていると擁護する。さらに、国際的な同性愛運動は同性結婚の合法化と性差別に反対する法律を制定するために国際的な立法化運動によって、フリーセックスの世界を樹立しようとする。

もし同性愛運動の目標が達成されれば、立法化の民主的な続きを通してフリーセックスの姦淫の独裁王国が樹立されることになるだろう。そこにおいて国民はLGBTの姦淫、近親相姦、乱交などの不道徳な行いを批判することができない。

しかし、フリーセックスと同性結婚は、人間の本性、天道、自然法、および神の意思に違反するものであり、また、結婚と家庭の定義を変更し、その結果として、東西の社会で長い歴史のプロセスを通して形成され発展して来た法体系と社会制度の構造を破壊することになるであろう。

最近、世界中の統一運動によって同性愛主義に勝利するための国際キャンペーンが結成された。これは文鮮明師が言われたように、共産主義以外の残る2つの神の頭痛である宗教の衰退の危機と性道徳の頹廃を克服し、家庭の価値と純潔を大切にするための運動である。

「絶対性」と「陽性と陰性の二性性相」、「三大祝福」、「四大心情圏」、「家庭の三大王権」、「祝福結婚」についての文鮮明師の教えだけが、世界的な煩わしい同性愛運動を克服するための「同性愛に勝利する理論」の形而上学的な土台を世界に提供できるのである。

神主義を中心として国際的な同性愛運動に反対して戦い勝利した後に、教育、家庭、メディア、立法、社会、経済、政治、政府、グローバルな諸分野に統一運動が奉仕した努力によって、天一国が樹立されるであろう。

図表 1: 「台湾における同性愛運動の計画と戦略」

図表 2: 同性愛に勝利するための戦略図表

図表 3: 同性愛主義に勝利するための国際超宗教キャンペーン(IICVOH)と
天一国建設キャンペーン